

外科医と少年は どんな関係にあると 思いますか？

ある日、父親とその息子が車で出かけたが、途中で交通事故に遭ってしまった。



運転していた父親と息子は別々の救急病院へ搬送された。

息子が運ばれた救急病院の手術室で、運び込まれてきた少年を見た外科医はこう言った。

「この少年は 私の息子です！」

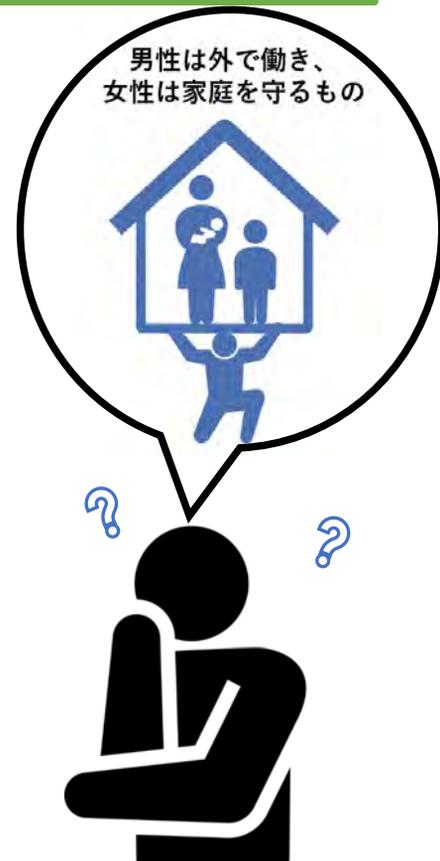
アンコンシャスバイアス —無意識の偏見・思い込み—

外科医と少年のストーリーを読んで、

- ・ん？と思いましたか？
- ・あれこれあれこれ考えましたか？
- ・意味が捉えられず、もう一度読み直しましたか？
- ・すぐに理解ができましたか？

アンコンシャス・バイアスは、多くの過去の経験や周囲の意見、日々接する情報から形成されるもので、**誰もが持っています**。

しかし、自身の**アンコンシャス・バイアス**に**無自覚な場合**、判断の単純化や決めつけの助長といった**悪影響**を及ぼす**可能性**があります。



アンコンシャスバイアスの例

アンコンシャスバイアスには、さまざまなものがあります。以下はその代表例です。

ステレオタイプバイアス

人の属性や一部の傾向に対する先入観や固定観念のこと。

特に、性別に対するステレオタイプは「ジェンダーバイアス」と呼ばれ、性別固定役割分担意識を助長する思い込みの一つ。

- 男性は外で働き、女性は家庭を守るもの
- 九州の人はお酒に強い

権威バイアス

権威のある人や専門家の言動はすべて正しいと思い込み、深く考えずに信用してしまうこと。

- 専門家の意見に従っていけば間違いない
- 上司の言うことはすべて正しい



慈悲的差別

自分より立場が弱いと思う他人に対して、本人に確認せずに、先回りして不要な配慮や気遣いをする事。

- 女性に負担はかけられない

正常性バイアス

予期しづらい事態、危機的状況を過小評価し、これは正常の範囲であり「自分は大丈夫だ」と思い込むこと。

- 私に限って、災害に巻き込まれることはない

性別による無意識の思い込み (アンコンシャスバイアス) に関する調査研究

- 対象者：全国 20代から60代
- 回収数：10,906人
- 【家庭・コミュニティ領域】と【職場領域】での性別役割、【その他】の性別に基づく役割や思い込みの41項目について、自分の考えに当てはまるか？性別に基づいて決めつけられた経験を聞いた。
- 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で回答。

家庭・コミュニティ領域	職場領域	その他
家事・育児は女性がすべきだ	組織のリーダーは男性の方が向いている	女性は感情的になりやすい
男性が洗濯物を干すのはみっともない	大きな商談や交渉事は男性がやる方がいい	女性は論理的に考えられない
家を継ぐのは男性であるべきだ	事務作業などの簡単な仕事は女性がすべきだ	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない
男性は結婚して家庭をもって一人前だ	職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	男性は人前で泣くべきではない
女性は結婚によって、経済に安定を得る方が良い	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	女性には女性らしい感性があるものだ
結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない	男性より女性の方が思いやりがある
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	女性はか弱い存在なので、守らなければならない
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	営業職は男性の仕事だ	
共働きで子供の具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	
学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長は副会長は女子の方が向いている	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	
女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	転職は男性がするものだ	
男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	男性なら残業や休日出勤するのは当たり前だ	
PTAには、女性が参加するべきだ	女性の上司には抵抗がある	
親戚や地域の会で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	同程度の實力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	
自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	
実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がすべきだ	仕事で成功していても、結婚をしていない女性は何かが足りないと感じる	
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何かが足りないと感じる	

1. 性別役割意識

男女ともに「**男性は仕事をして家計をささえるべきだ**」が一番高くなりました。男女差が大きく開いたのは「**男性は～すべきだ**」という項目で、全体的に男性で高い割合になりました。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

男女両方で上位10位に入っている項目

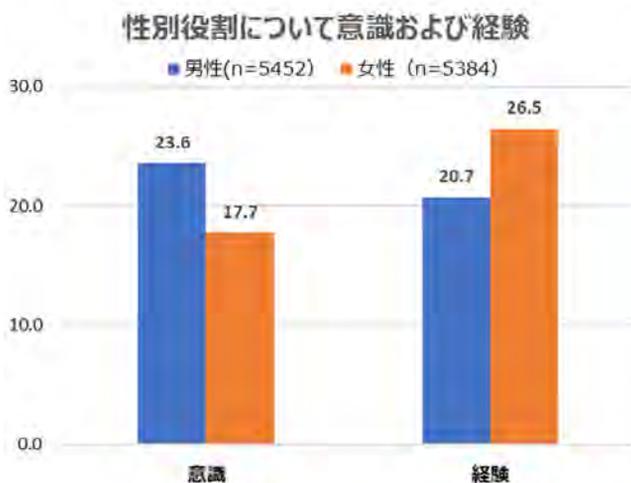
男性 上位10項目	回答者数：5452	(%)
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		48.7
2 女性には女性らしい感性があるものだ		45.7
3 女性は感情的になりやすい		35.3
4 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		34.0
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		33.8
6 女性には弱い存在なので、守られなければならない		33.1
7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		30.4
8 男性は人前で泣くべきではない		28.9
9 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い		28.6
10 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		28.4

女性 上位10項目	回答者数：5384	(%)
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		44.9
2 女性には女性らしい感性があるものだ		43.1
3 女性は感情的になりやすい		37.0
4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		33.2
5 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い		27.2
6 女性には弱い存在なので、守られなければならない		23.4
7 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		21.6
8 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		21.5
9 組織のリーダーは男性の方が向いている		20.9
9 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		20.9

2. 男女差でみえるアンコンシャスバイアス

性別役割の「意識」は男性が強い一方、直接言われた・言動や態度から感じた「経験」は女性のほうが多くなりました。

男性は女性と比べ、性別に基づく役割を直接言われた、言動や態度で感じた「経験」は少なくなりました。**伝統的な役割観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性があります。**



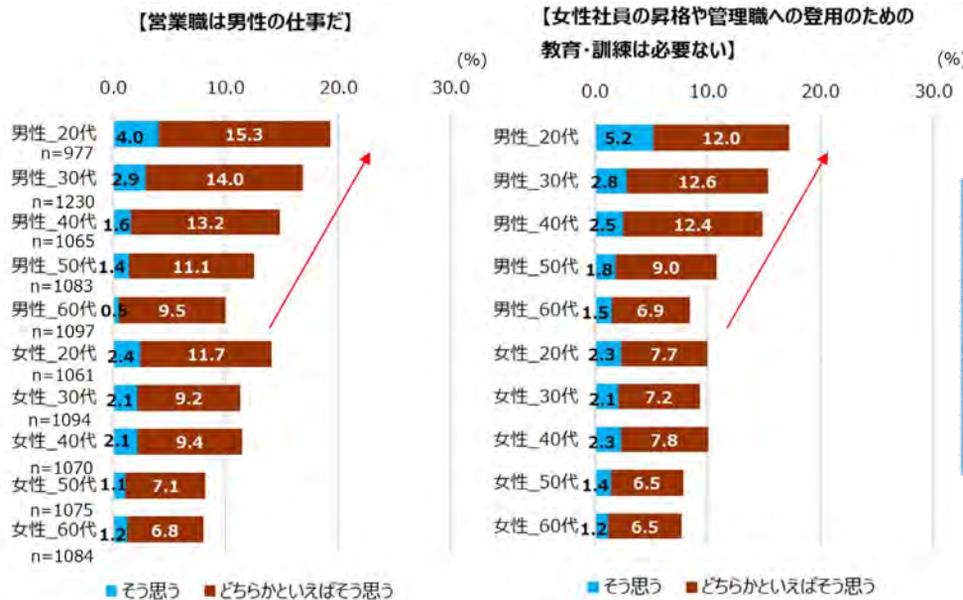
意識：測定41項目について「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答率の平均 (%) を男女別に算出

経験：測定41項目について、性別に基づく役割を「直接言われた」、「言動や態度から感じた」経験の回答率の平均 (%) を男女別に算出

3. 職場の役割分担における性別意識

「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性で年代が低いほど割合が高くなる傾向にあり、20代男性で最も多くみられた。

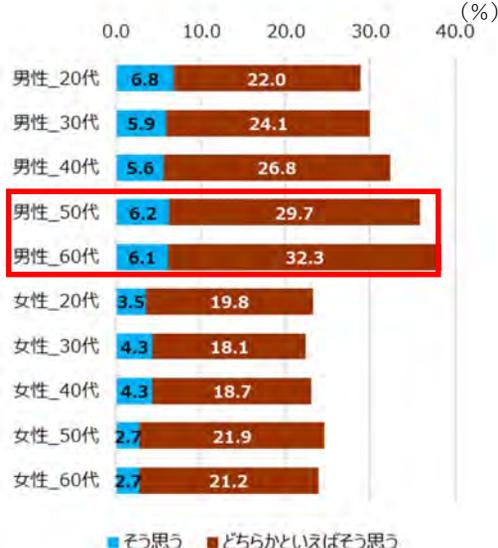
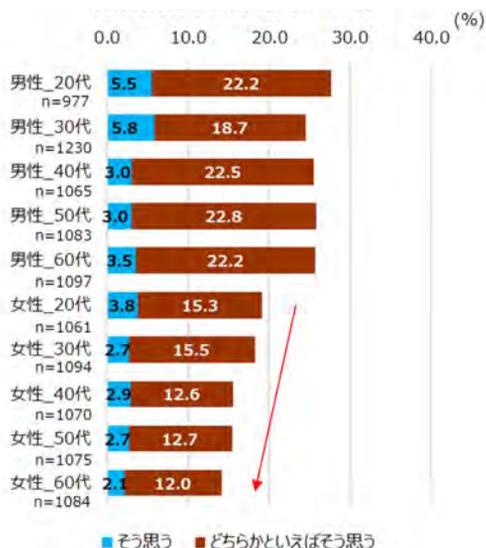
「男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない」「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」は、20代の男女間で大きな差がみられた。



4. 性別役割意識 (性・年代別)

【男性より女性の方が思いやりがある】

【女性はか弱い存在なので、守らなければならない】



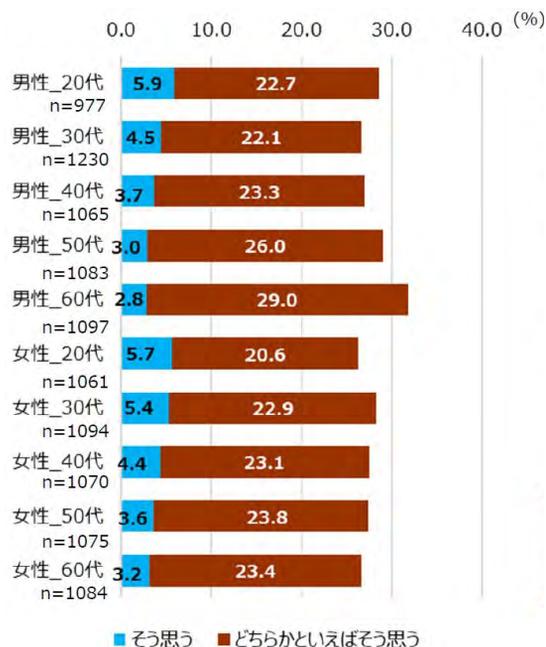
女性では年代が高くなるほど「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が低い

男性50-60代で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が高い

5. 結婚に対する価値観の相違

① 【女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い】

自分の「意識」



- ✓ 性・年代別で大きな差はない
- ✓ いずれの層にも一定数見られる

5. 結婚に対する価値観の相違

② 【女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い】

言われたり、言動や態度から感じた「経験」



- ✓ 「経験」は女性が多い
- ✓ 年代が高くなるほど割合が多い (特に女性の50-60代)

③ 【性別役割を言ったり、言動を感じさせた人】

男性

- 1位 父親
- 2位 母親
- 3位 男性の知人・友人
- 4位 配偶者・パートナー
- 5位 女性の知人・友人

女性

- 1位 母親
- 2位 父親
- 3位 女性の知人・友人
- 4位 女性の親戚
- 5位 男性の親戚

男性では「父親」、女性で「母親」が1位
同性の知人や友人が上位にランクイン

5. 結婚に対する価値観の相違

【④性別役割を言ったり、言動を感じさせた人】 <自由回答より>

感じさせた人	自由回答	性・年代
父親	「女性は確立した男性と一緒にいることが安定した生活が得られる」要因の一つでもあると話す大正生まれの父。当時の教育や思想、社会情勢から勘案すればそのような考えも違和感を感じられなかったのではないか。	男性 60代
	就職するとき「仕事よりも結婚して経済的に安定したほうが幸せになれる」と父親から言われた。	女性 60代
母親	特に母親が「女性はいくら頑張っても限界があるので経済的に安定したパートナーと結婚したほうが良い」と言っていた。	男性 40代
	母親が専業主婦なので、父親のようなお金に余裕のあるパートナーを見つけると今のような生活ができると言われたことがある。	女性 20代
男性の知人・友人	友達が「女性は結婚したら働かなくて良い」と言っていた。	男性 30代
女性の知人・友人	「女性の幸せはお金持ちと結婚することだ」と言っている女性がいた。	男性 60代
	高校生のときに友人と将来の話をしているとき、女性は就職しても賃金が低いからいずれは結婚しなければならない、という話になった。	女性 30代
配偶者・パートナー	男性が仕事をして家庭を支えるべきであるとパートナーに言われた。	男性 30代
女性の親戚	祖母に「しっかりと収入のある男性に養って貰いなさい」と言われた。	女性 30代
男性の親戚	学生の頃ですが、親戚の男性に「女性の人生の目標は、結婚して子供を作って家庭を築いて幸せになることだ」と言われたことがある。	女性 60代
メディア	ドラマ等の描写で、結婚している女性がゆとりのある生活をしている反面、仕事をしている女性を面白く表現するもの	男性 20代
	バブル世代なので、当時のいわゆるトレンドドラマでは金持ちのパートナーとの結婚が、楽できる一番の知恵だと頭に刷り込まれている印象がある。	女性 40代
学校・教師	学校の家庭科の授業で女性の将来について、女性は結婚して家庭を持つことが望ましいという事を先生が言っていた。	男性 20代
	学歴よりも早く結婚してお金に困らない生活をするのが良いと進路相談で言われた。	女性 40代

アンコンシャスバイアスを 解消するには

自分の持つバイアスの存在に 気付く

- 相手の「不快」に目を向ける
- 自分が持つバイアスが・・・
→どのように相手に受け取られるかな？
→今の社会情勢の中で良いと言えるかな？

バイアスがあらわれやすい 言動をやめる

- 自分の価値観からいったん離れて、相手の価値観に歩み寄る
- 違いを受け入れる心もちが大切
- 理想の押し付けをしない

意識の置きどころを変える

- 相手の「心のあと味」に目を向ける
- 決めつけない
- 思っていたイメージとは全く逆のイメージに気づく
- 誰に対しても、何に対しても「対等」を意識する



「アンコンシャス・バイアス」マネジメント 守谷智敬 著 より